大津市教育支援センターだより　第49号

支える・つなぐ・あゆむ

令和５年７月１日発行
〒５２０－００４７
大津市浜大津四丁目１番１号
（明日都浜大津１階）
電話：０７７－５２７－５５２５
FAX：０７７－５２６－８０３０

子どもの笑顔輝く大津の教育 －卒啄同時(そったくどうじ)－

大津市教育委員会教育長　島崎　輝久

先日、雨上がりの晴れ間に、あおあおとした木々の下を歩いていました。突然、風がびゅうっと吹いたかと思うと、しずくがポタポタ・・・思わず上を見ると、葉っぱにたまった雨粒が降り注いでくるのでした。職場でそんな話をしていて、新緑の上を勢いよく吹く風を「青嵐（あおあらし)」、木々に降りたまった雨が落ちるのを「青時雨（あおしぐれ)」ということを初めて知りました。びしょびしょになってしまいましたが、さわやかな驚きと夏の足音を間近に感じた瞬間でした。

さて、皆さんは「ひな鳥が卵の殻を破って生まれる時の様子」を見たり聞いたりしたことがありますか？いざ、生まれ出ようとするひな鳥は、内側から懸命に殻をつついて破ろうとします。これを「**啐(そつ)**」といいます。ところが、ひな鳥の成長を守るための殻は頑丈で、ひな鳥の力だけではなかなか突き破れません。その音を聞いた親鳥が、外側からつついて殻を破り、ひな鳥を外へ出そうと助けます。これを「**啄(たく)**」といいます。

親鳥が、ふ化する気配のない卵をつついて割ってしまったら、ひな鳥は死んでしまいます。そうかといって、ひな鳥の動きに気づかず殻をつつくのが遅れたら、ひな鳥は力尽きてしまいます。早過ぎても遅過ぎてもいけません。外に出ようと必死に内側からつつくひな鳥と、外側で注意深く観察している親鳥が、呼吸をぴったり合わせて殻を破ることがとても大切なのです。このことを「**卒啄同時(そったくどうじ)**」といいます。

これは、教育にも大いに当てはまります。

まずは、「ひな鳥」の立場です。自分から「殻を破って外の世界に出たい」と意思表示することが大切、とはいえ、子どもにとってはこれがなかなか難しいのです。まして思春期には、おとなに対して、「余計な干渉はされたくない、でも、放ったらかしにもされたくない」といった矛盾した思いをぶつけることも少なくありません。しかし、「殻の外には、自分を見守り手伝ってくれる人」が必ずいることを信じて、外の世界に出ようとする勇気を持ってほしいと思います。

次は、「親鳥」の立場です。我慢できずにあれこれ口を出したり、手を貸したりするのではなく、「卵は時期が来れば必ずふ化する」ことを信じて、「ここにいるよ」とサインを送りながら、卵のそばで注意深く見守り続けることが大切です。また、ひな鳥が殻を破って外へ出たときに、ひな鳥自身が選んで飛んでいけるルートを二つ三つ用意しておくことも効果的かもしれません。そして、ひな鳥の「外に出たい」という意思を感じたなら、間髪入れずにそっと手伝ってあげる、そんな、過干渉でも放任でもない、好機を逃さない適切な関わりが何より重要ではないかと思います。

大津市教育支援センターでは、子どもの「心の居場所」となるよう「安心して学ぶことが出来る環境」を整えています。また、不登校や発達の課題など教育上の悩みに対し、解決に向けて寄り添い、伴走しながら支援する体制にも努めています。どうぞ、小さなことでもご遠慮なく、ためらわずにご相談ください。

「**卒啄同時**」・・・　子どもの成長・変化の好機を逃さないように・・・

教育支援センターの事業について

大津市教育支援センターでは、その運営方針に掲げる「子どもの学校、家庭等における教育上の課題の解決に向けた支援を行い、子どもの社会的自立に資する」ように、今年度運営組織を「指導・管理」「相談」「支援」の３つのグループに再編いたしました。子どもの情緒不安や集団にうまく入れないなどの課題に対応するとともに、子育てに悩む保護者や教職員に対して教育相談を行います。また、保護者対象の講演会や教職員対象の研修会・講演会なども開催しています。

1 指導・管理グループ

① 特別支援教育の充実

市立小・中学校の特別支援学級、通級指導教室への指導助言、個別の指導計画の作成や教育課程、具体的な支援のあり方に関する研修や指導、医療的ケア支援員の配置に関する事業を推進し、特別支援教育の充実を図ります。

〇特別支援学級に関する教育課程指導および観察訪問

※令和４年度からは「教育支援センター学校訪問」にて全小・中学校に実施

〇特別支援学級の設置に関する事務（令和５年度２３４学級）

② 特別支援教育に関する巡回相談

市立小･中学校に在籍し、特別な支援を必要とする児童生徒の状況を把握し、学校での具体的な支援の方法について相談・助言を行います。

〇教員ＯＢや公認心理師・発達相談員による巡回相談

〇多職種の相談員による専門的な巡回相談

〇特別支援教育担当の教育支援員が、継続的に子どもの支援を行い、学級指導に参画します。

③ 就学に向けた相談

小･中学校への入学にあたり、「特別な支援が必要なのでは」と心配な場合に、子ども人や保護者の方の希望を踏まえながら、相談員が必要な情報等を提供し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行える就学先（特別支援学校、特別支援学級）を一緒に考えていきます。子どもが、今のもてる力を発揮し、生き生きと学ぶことができる学習環境はどこの学校、学級なのかを大切にしています。

④ ことばの教室

言語発達の遅れ、吃音、発音が上手くできない、コミュニケーションの苦手さなど、ことばに障害や課題のある幼児･児童･生徒を対象に、個々の状況に応じてことばの発達を支援するため、言語に関する相談指導をする機関です。

ルーム名	場所
北部教室	志賀南幼稚園内
中央教室	明日都浜大津１階
南部教室	膳所小学校内

⑤ 教育相談講演会

年６回開催します。会場は全体会は生涯学習センター、その他は明日都浜大津です。

全体会　　７月２６日（水）１４：００　楠　　凡之（北九州市立大学教授）　※敬称略
第１回　　６月２８日（水）１５：００　吉山　宜秀（公認心理師）
第２回　１０月１１日（水）１５：００　小坂　礼美（公認心理師）
第３回　１１月１１日（土）０９：３０　本谷　研司（精神科医）
第４回　　１月２０日（土）０９：３０　中川美穂子（公認心理師）
第５回　　２月　８日（木）１５：００　今井たよか（公認心理師）

② 相談グループ

① 電話による教育相談　■電話 077-525-7912 または 077-522-4646

○月曜日～土曜日　9:００～１7:００（受付は１６:３０まで）
○不安を抱えている子どもや、子育てなどで悩んでいる中学３年生までの保護者からのご相談をお受けしています。学校からの相談も受けています。
○電話相談から来所面接による教育相談につながるケースもあります。

② 来所面接による教育相談（要事前予約）

○月曜日～土曜日　9:００～１6:３０
・親子並行面接相談
・教職員への教育相談、情報交流会、ケース検討会議
・単発の来所面接による相談

③ オンライン相談（要事前予約）

○月曜日～土曜日　9:００～１6:３０（１回４０分以内）
○相談対象
・来所面談を継続している保護者で、家庭の事情により来所が困難な方
・来所面談の状況やウイング児童生徒の情報共有を希望する学校関係者
・当センターの公認心理師による単発の相談を希望する学校関係者

④ 専門医によるこころとからだの相談

学校による対応だけでは解決が難しい医療面の課題を抱えた長期欠席の児童生徒ならびにその家族等への適切な支援について、学校が専門医に相談し、助言を受けることで、疾患や治療に対する正しい理解の促進を図り、よりよい対応につなげます。

○精神科医　本谷　研司
　　大津市教育支援センタースーパーバイザー
○相談場所　教育支援センターまたは学校

⑤ スクールカウンセラーの派遣

○全ての市立小・中学校にスクールカウンセラーを派遣しています。
　・大津市が派遣…小学校３７校に１５名
　・滋賀県が派遣…中学校１８校および小学校４校に１９名

③ 支援グループ

① 教育支援ルーム「ウイング」

大津市内に在住の小学生・中学生を対象に、再登校・主体的な進路選択・社会的自立への教育支援を目的としています。

対象	ルーム名	場所	月	火	水	木	金
小学生	ウイングせた	**瀬田北市民センター**	○			○	○
	ウイングぜぜ	**生涯学習センター**		○	○	○	
	ウイングおの	**小野児童館**		○	○		○
中学生	ウイング・レイク	**明日都浜大津**	○		○	○	○
	ウイング・スカイ		○	○		○	○
	ウイング・コスモ	**和邇文化センター**		○※			○※

※コスモは 9:00～12:00

○小学校１年生から通うことができます。
○小学生の活動時間は、９:００～１１:３０です。
○中学生の活動時間は、９:００～１５:００です。ただし、木曜日は１２:００までです。
○実際の活動は、一人ひとりの状況に合わせてプランを組んでいます。
○不安を解消するために、小学生は親子面談、中学生は親子並行面談を実施しています。

○教室外での体験活動も計画しており、体験活動のみの参加もあります。
・スポーツ活動（県立スポーツ会館など）※外部参加可能（小４以上）
・環境学習（オーパル・オプテックス）
・文化体験（絵画、陶芸、茶道など）　・遠足（琵琶湖博物館など）
・葛川自然体験　・乗馬体験（大谷乗馬場、TCC セラピーパーク）

② アウトリーチ型支援

市立小・中学校に在籍し、不登校（傾向）の状況にある子どもについて、その長期化・固定化を防ぐため、在籍校や家庭を訪問して要因や背景等の見立てをし、個に応じた支援方策を検討・実施することで、学校復帰や社会的自立につながる支援を行います。

○教育支援員と公認心理師が、学校の別室などに出向き、学校に来にくかったりウイングまで足が向かなかったりする子どもを支援します。
○必要に応じて、教育支援ルーム「ウイング」につなぎます。
○公認心理師が、子どもや保護者に対してカウンセリングを行います。
○小学校への支援は令和４年度からスタートし、１年間で７７回訪問しました。
○中学校への支援は今年度からスタートし、６月末時点で２６回訪問しました。

あとがき

教員採用試験の時期となり、ここ数年、新聞等で受験者数の減少や倍率の低下を懸念する報道を見聞きします。これまで以上に教員の業務や働き方などに対して関心が高まっていると感じます。

先日、この４月から採用された初任者を対象に、当センターの事業概要および教育相談について講義をする機会がありました。その中で初任者に教職を志した理由を尋ねたところ、ある先生が「私も不登校を経験しウイングに通っていました」と皆の前で言ってくださいました。私は予想もしなかった話に内心驚きましたが、よくぞ教員になってくださったと嬉しい気持ちになりました。同時にその先生の自信に満ち溢れた表情から、当時の学校の先生やウイングの支援員、臨床心理士のほか、何より親御様とご本人との間に「**啐啄同時**」があったことは想像に難くありません。子どものそばで注意深く見守り続けることの大切さを改めて認識した一日でした。（教育支援センター次長　山本晃弘）